

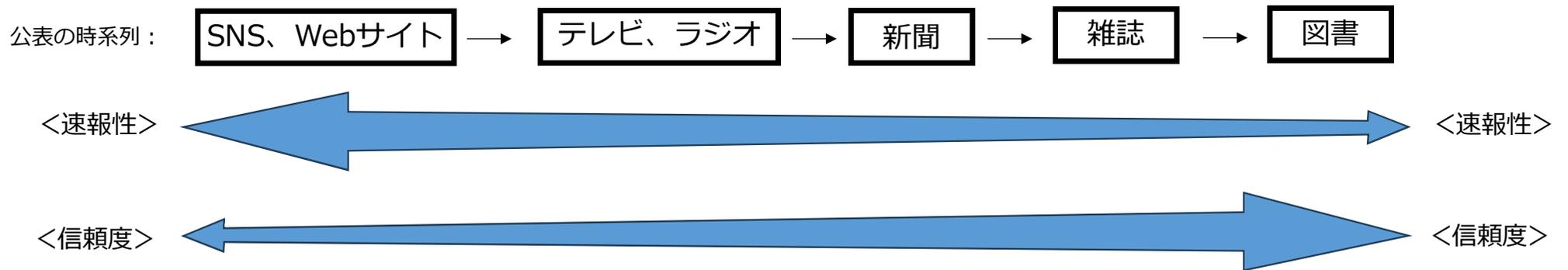
# 情報源の種類と特徴

## ■ 各種メディア（媒体）について

新聞・雑誌・図書から、テレビ・ラジオ、Webサイト・SNSまで、さまざまな情報源があり、それぞれに特徴があります。

これらの情報源を公表の時系列に並べると以下のとおりとなります。

「速報性」と「信頼度」の観点から評価すると、公表後時間か経過するにしたがって情報は古くなり、当然速報性は低くなりますが、時間経過にともなって進められた調査・研究の結果が反映されますから、逆に信頼度は高まると、一般的には考えられています。



# 情報源の種類と特徴

## ■各種メディア（媒体）について



速報性に優れた情報でことごとくをおおづかみにしたうえで、信頼度の高い情報をもとに深く掘り下げる、といったことは可能かと思われます。ただし、同じ種類の情報源であっても、それぞれに対する評価は違ってきます。

たとえば、同じSNSやWebサイトであっても、公的機関等が公表する情報と、個人的な意見や感想を述べているにすぎないものとは、信頼度に大きな差があるでしょう。

また、同じ雑誌であっても、社会情勢や世間の関心事に重きが置かれた一般雑誌と、研究者が日々の研究成果を公表する学術雑誌とは、機能・役割が異なります。

# 情報源の種類と特徴

## ■各種メディア（媒体）について

あるいは、広く教養を身につける場合と、  
大学での調査・研究において必要となった専門情報を調べる場合とでは、  
選ぶ図書も自ずと違って来るでしょう。

新聞にいたっては、同じ一般紙であっても  
それぞれに論調が異なることはよく知られているところです。

どのメディア（媒体）が良いとか悪いとかということではなく、  
時と場合により使い分けることが必要だと言えそうです。



# 情報源の種類と特徴

## ■ 検索ツールおよび電子リソースについて

Googleなどの検索エンジンで得られる情報と大学で契約している電子リソースとを比較すると、前者は情報量が膨大であるものの、根拠や真偽さえも明確でないものが含まれる可能性があるのに対して、後者は情報としては限定的ながら、出所や著者等が明示され、識者や専門家により執筆・編集されたものとして、一定の客観性や妥当性が担保されています。

「Google Scholar」と「CiNii Research」とを比較しても、前者は圧倒的な情報量や速報性の観点で優位ですが、前者だけに頼っていると検索対象から外れる場合もあるため、せっかく大学で契約している電子リソースにたどり着けない可能性があります。



# 情報源の種類と特徴

## ■ 検索ツールおよび電子リソースについて



そうかといって、後者「CiNii Research」の対象はほとんどが日本語で執筆されたものですので、外国語の文献を求める場合には不十分です。

「Google Scholar」はあくまでもオープンアクセス（OA）<sup>\*1</sup>の論文を探すためのツールとして考える方がよさそうです。

とはいえ、OA論文がすべて低質というわけではなく、むしろ多くは適切な査読<sup>\*2</sup>を経ています。これらについても、特徴を踏まえて上手に使い分けることが肝要です。

\*1) 論文などの研究成果をインターネット上で公開し、だれもが無料で閲覧・利用できるようにすること。またそのような状態。

\*2) 学術雑誌に投稿された論文を、その分野を専攻する研究者等が読んで内容の妥当性や独創性などを審査し、掲載の可否を判断する評価や検証のこと。

# 情報源の種類と特徴

## ■ その他



近年、インターネットにより、さまざまな情報が容易に入手できるようになったことは、周知のとおりです。そればかりでなく、SNSの発達と浸透により、情報の発出・発信さえも格段に容易になりました。

これらのことは、一方で入手した情報を鵜呑みにして利用することの危険性を意味し、他方で不用意な発信により加害者となり、取り返しのつかない結果をもたらす可能性があることさえも意味します。

また、他人の創作をコピー・アンド・ペーストにより自分のものとして使うことや、AI（エーアイ）が導き出した答えを無頓着に信用することは、単に倫理的に問われるだけでなく、誰かの不当な言い分に加担することにもなりかねません。

# 情報源の種類と特徴

## ■ その他



世の中にあふれる情報は、誹謗・中傷としか思われぬものや真偽が疑わしいものから、相手の尊厳をまもりつつ持論を展開しているものや、多くの人々にとって有益と思われるものまで、まちまちです。

まずは、情報の入手と利用にあたり、その情報の適否等について安易に判断せず、じっくりと吟味する癖をつけてください。

また、自分の見解を文章で表現し、レポートや論文などのかたちで発出することの大切さと重さの両面を、真正面から受け止めてください。

そうして、皆さんが情報の海を賢く渡って行かれることを願っています。